

手作り絵本の楽しさ

奈良教育大学 梶田 幸恵

はじめに	12
一 誰でも簡単に楽しく作ることができる絵本	18
絵をさきに、ストーリーはあとで考える	19
絵を描くなら線を生かす (○△□)	20
色を塗るなら赤・黄・青を混ぜる	23
二 身近なところに絵本の種を見つける	24
わたしのすきなもの	24
わたしの家族	25
わたしを動物にたとえたら・・・	26
三 一枚の紙から絵本を作る	27
一枚の紙を折って切る方法	27
大学生の自己紹介絵本	28
「遠足のしおり」と「メモ・スケッチ帳」	29
四 折れ本型絵本を作る	29
二十歳の自叙伝絵巻折れ本型絵本	30

「手作り絵本を楽しむ会」で作った折れ本型絵本	31
中学生の『沖繩修学旅行絵巻』の折れ本型絵本	32
五 ソフトカバーの絵本を作る	35
六 本の各部の名称	40
洋装本（ハードカバー）製本の名称	40
七 ハードカバーの絵本を作る	43
八 ミニ絵本を作る	52
九 デジカメで写真絵本を作る	54
粘土のたいそう絵本	54
「粘土のたいそう」の方法	55
観察記録で科学絵本	56
十 飛び出す絵本を作る	57
十一 協働・共同制作絵本	67
「手づくり絵本の会 プラス」協働制作	67
おわりに	72



701年 光明子が生まれる



手作り絵本『光明皇后』(表紙)

はじめに

わたしが手作り絵本にはじめて興味をもったのは、神戸で小学校の教師をしていた時です。今から四十年ほど前のことです。少ない給料の中から学級文庫のために絵本を買い、給食の準備時間を使って子どもたちに読みました。給食係りの子どももアルミ食器の音を立てないように、絵本に興味をもって耳を澄ませながら配膳をしていました。

そのうち、漫画風ですが鉛筆で絵を描き、短い言葉をそえ、ホツチキスでとめた簡単な絵本を作る子どもがでてきました。たちまち、人気がでてひろまり、子どもの手作り絵本を学級文庫の絵本と一緒に並べ、貸し借りをするようになりました。手作り絵本のヒントを得るために、子どもは市販の絵本を繰り返しよく読むようになりました。

附属小学校の図工専科教員になってからは、六年生の卒業記念として修学旅行や小学校生活の「思い出絵巻」を毛筆で描き、折れ本型の絵本を作りました。その絵本を長く保存できるように、文箱を作り、木彫の学習もしました。

子どもたちが絵本を作るようすを見て、わたしも絵本を作りたくなりました。しかし、物語を自分で考えようとしても、子どものようにすぐに思いつきません。



男の赤ちゃんが死ぬ



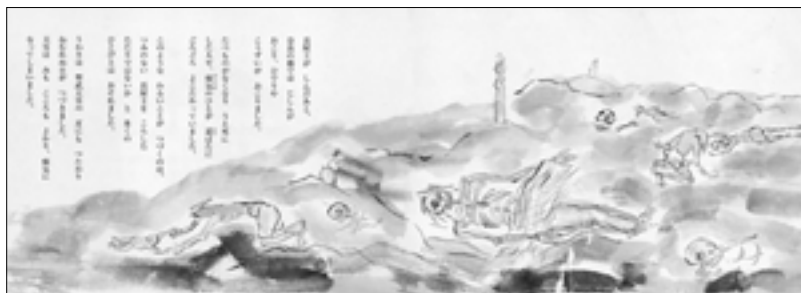
光明子が皇太子（後の聖武天皇）と結婚する

たまたま、岩波少年文庫『古事記物語』（福永武彦作 昭和三十二年発行）が手元にあったので、古事記にてくる女の人に焦点を当てて木版画絵本を作ることになりました。福永氏の文章をそのまま絵本に書くには文章が長すぎ、子どもにわかるように友人と相談して文章を短く書き換えました。

当時、神戸新聞社が「赤とんぼ絵本コンクール」を開催したので『古事記物語 さほ姫』を出品して受賞しました。また、大谷美術館が絵本原画コンクールを開催し、『インドの民話 クリシナ物語』を出品して受賞しました。

このあと、宮城教育大学に転任して、自主ゼミで学生たちと一緒に飛び出す絵本の教材研究をしました。紙工作の教材として飛び出す絵本は最適です。場面構成と飛び出す仕組みを考え、色画用紙の配色を考えるなど、描画と工作、デザインなどの創造的なアイデアを練ることができました。教育実習先では学生以上に子どもが興味をもち、いろいろな工夫をしました。学生たちは多くの人たちに飛び出す絵本を見てもらおうと展覧会を開き好評でした。その頃は手作り絵本に関する資料も本も見つからず、ハードカバーの製本のしかたがわかりませんでした。試行錯誤して作り、展示中に絵本が壊れ修理するのがたいへんでした。

十三年前に奈良教育大学へ転任してすぐ、学生が絵本のことを研究して卒業論文に取り組みたいと相談にきました。ちょうど奈良市立中央図書館で「手作



奈良の都て天災がおこる

り絵本講習会」を開くというので学生と一緒に参加しました。その時に出会ったのが講師の加藤啓子さんでした。五回の講習会の前半は、新聞のカラーページを使って貼り絵で絵本を作ることと、ハードカバーの製本技術を学びました。後半は自由制作で物語を自分で考え、絵も製本もひとりりてやり、「世界に一冊しかない絵本」を作りました。わたしは仙台から奈良へ引越してすぐのことで、奈良の歴史を調べ、日本伝統文化の発展に貢献した女性に焦点を当てました。そして『光明皇后』という絵本を作りました。自分で作ってみてはじめてプロの絵本作家の苦心や工夫を思い知ることができ、市販の絵本の見方がかわりました。

このことがきっかけで、加藤さんを「幼児の造形表現」の授業のゲストティーチャーとして迎え、絵本の読み方と作り方を学生に教えていただきました。加藤さんを中心とした仲間の方々のお力添えて、平成十七年に奈良教育大学 学術情報研究センター図書館に「えほんのひろば」を創設することができました。このえほんのひろば（当時は附属図書館）で、市販の絵本と学生たちが作った手作り絵本を見ることができるようにと計画しました。

毎年、学生は、自分たちで企画運営をして『手作り絵本と二十歳の自叙伝絵巻展』を開いてきました。構内にある明治時代のレンガ建築の教育資料館を展示会場として、地域の人たちや子どもたちに、簡単な手作り絵本の作り方を伝え



光明皇后は苦しむ人たちを救う

てきて十数年がたちます。

このように、わたしと手作り絵本のかかわりを振り返ってみて、ひとりでも多くの人たち、子どもたちに手作り絵本の楽しさを伝えたいと思うようになりました。

平成二十年三月をもってわたしは定年を迎えました。ここで手作り絵本が途絶えるのではなく、誰でも簡易に絵本を作ってほしいと願い、このブックレットを作ることになりました。

ブックレットを作るに当たって、在校生、卒業生、大学院生、地域の子どもや大人の方々に、手作り絵本の作品の掲載にご協力いただきました。

また、山岸清太郎さん（「手づくり絵本の会 プラス」代表）に力を貸していただきました。この場をお借りして厚く御礼を申し上げます。

「えほんのひろば」は、市販の絵本を二千冊余り、学生や大学院生の手作り絵本を二百冊余り所蔵して、本学関係者のみならず、一般の人たちにも開放しています。ほとんどが硬い表紙（ハードカバー）のしっかりした製本です。この製本は西洋から伝わったもので洋綴じ（洋装本）といえます。また、手にとって見ることはできませんが、図書館内の金庫の中では、室町末期から江戸時代に作られた古い和綴じの製本（和装本）の『奈良絵本』を大事に保存しています。



奈良絵本『鳥帽子折』



『熊野の本地』

日本では綴じるかたちの絵本よりも早く、巻物に絵や文章を描く「絵巻物」が発展しました。絵巻物は十世紀平安時代や鎌倉時代に盛んに作られ、絵巻の内容はお経の絵解き、偉いお坊さんの伝記、お寺や寺院の縁起、源氏物語の挿絵などでした。

代表的な絵巻は『信貴山縁起絵巻』・『鳥獣戯画』・『源氏物語絵巻』・『伴大納言絵巻』など数々の国宝の絵巻があります。この絵巻の伝統が十五世紀以降、御伽草子に引き継がれて、『奈良絵本』をはじめとした絵草子がたくさん作られるようになりました。

奈良絵は東大寺や興福寺などの絵仏師が描きはじめ、後に京都の町絵師も描くようになりました。和紙に岩絵具や顔彩などで美しい絵を描き、金泥や銀泥を用いた華やかな絵本です。子どもに見せるためというよりも「嫁入り本」とか「柵飾り本」として作られ、高価なもので庶民の手の届かない絵本でした。

奈良教育大学が所蔵する『奈良絵本』の実物は特別許可を申請しなければ見ることができませんが、元学長・赤井達郎名誉教授の解説文と図録写真をインターネットで自由に見ることが出来ます。(アクセス先は、奈良教育大学教育資料館ホームページ「奈良絵本画像データ」)

絵本を読むことと作ることは、子どもだけでなく老若男女すべての人にとって車の両輪のように大事なもので、空想力や創造力をゆたかに育ててくれます。失敗をおそれずいろいろな絵本作りを試みてください。